

新富山県 教育振興 基本計画

概要版



富山マラソン



富山県美術館



こどもとやま県議会

ふるさと富山に誇りと愛着を持ち、
地域社会や全国、世界で活躍し、
未来を切り拓く人材の育成
— 真の人間力を育む教育の推進 —



タブレットを活用した授業

平成29年4月

新富山県教育振興基本計画

計画の策定にあたって

この計画は、県の総合計画「新・元気とやま創造計画」との整合性を図りながら、「富山県教育大綱」に即して、本県がめざす教育の姿（目標）や施策の基本的方向などを明確に示し、それらを確実に実現するために今後5年間に必要な教育施策や取組みを体系的に整理した教育に関する基本的な計画です。

計画期間は、平成29年度から平成33年度までの5年間です。

基本理念

**ふるさと富山に誇りと愛着を持ち、
地域社会や全国、世界で活躍し、
未来を切り拓く人材の育成
－ 真の人間力を育む教育の推進 －**

「富山スタンダード」の推進など、これまでの取組みや良き伝統を引き継ぎ、市町村や学校、家庭、地域、企業等と協力しながら、一人ひとりの子どもから大人までのそれぞれの段階で、様々な分野において、ふるさと富山に誇りと愛着を持ち広く世界に目を向け、夢や志、情熱を持って地域社会や全国、そして世界で活躍し、未来を切り拓く人材の育成に積極的に取り組み、「とやまの新しい教育」を創造し、「真の人間力」を育む本県ならではの教育を推進します。

計画の体系～9つの基本施策～

- 1 学校、家庭、地域で取り組む子どもの成長支援
- 2 子どもの可能性を引き出し、才能や個性を伸ばす教育の推進
- 3 子どもの健やかな成長を支え元気を創造する教育の推進
- 4 社会の変化と多様なニーズに対応した高校や大学等の教育環境の充実
- 5 生涯をとおした学びの推進
- 6 ふるさとを学び楽しむ環境づくり
- 7 次世代を担う子どもの文化活動の推進
- 8 元気を創造するスポーツの振興
- 9 教育を通じた「ふるさと富山」の創生

学校、家庭、地域で取り組む 子どもの成長支援

- 子どもの健全な育成と地域の教育力の充実
- 家庭の教育力の向上
- 児童等の安全の確保

おもな取組み

- 「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」など、家庭、地域、企業で道徳性や社会性を育む教育の充実
- 高校と市町村が実施する「学校ネットルールづくり」の取組みへの支援
- 希望する児童生徒に対して、放課後や夏休み等を利用した教科の補充的な指導を行う中学校放課後学習支援などの学習機会の充実
- 親が自らの役割や子どもとのかかわり方を学ぶ「親学び講座」を、乳幼児期の親から実施するなど、「親学び」の普及・啓発の推進
- 企業における家庭教育講座の開催など、社会全体で家庭教育を支援する取組みの推進
- 安心して小学校に入学できるよう、「幼・保・小の接続期カリキュラム」の活用や「保護者支援リーフレット」の作成と配布
- モデル校における緊急地震速報受信システム等を活用した先進的・実践的な防災教育の推進やその普及啓発
- 学校安全パトロール隊など、地域で子どもを守り育てる活動への支援



社会に学ぶ『14歳の挑戦』
図書館での読み聞かせ

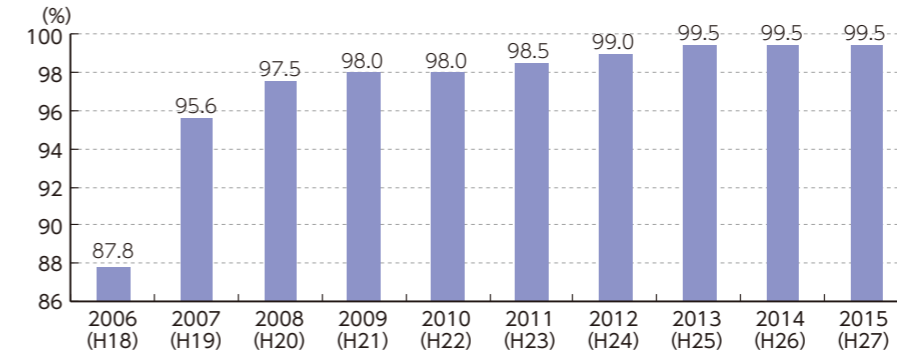


中学校放課後学習支援



とやまネットルールづくりモデル事業

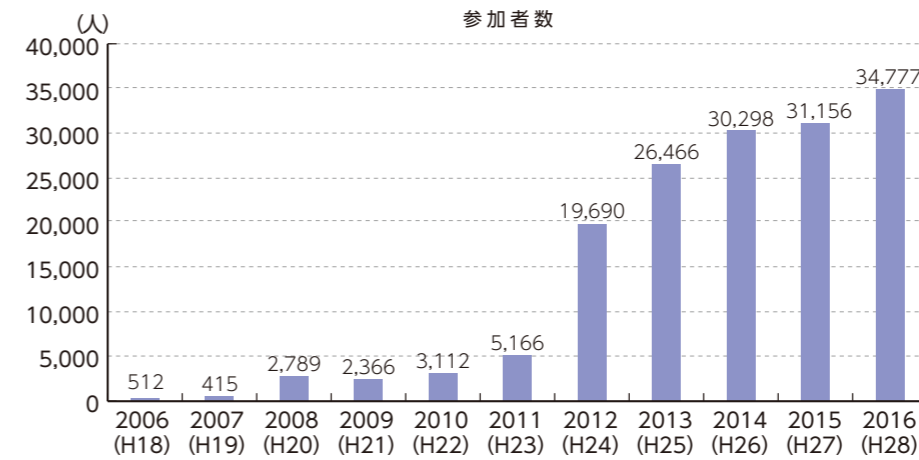
■ 放課後子ども教室や放課後児童クラブ等の実施率の推移



※全小学校区のうち、放課後子ども教室、放課後児童クラブ、とやまっ子さんさん広場を実施する小学校区の割合

資料：県生涯学習・文化財室、児童青年家庭課調べ

■ 親学び講座実施状況



資料：県 生涯学習・文化財室調べ

【参考指標 (基本施策の目標を具体的にイメージするための参考となる指標)】

指標名及び指標の説明	概ね5年前	現況	2021 (H33) 年度の姿	
			2021年度 (H33年度)	(目標設定の考え方)
放課後子ども教室等を実施している小学校区の割合 <small>県内小学校区のうち、放課後子ども教室、放課後児童クラブ、とやまっ子さんさん広場のいずれかを実施している小学校の割合</small>	98.5% 〔2011〕 〔H23〕	99.5% 〔2016〕 〔H28〕	100%	全小学校区での実施を目指して取り組む
子どもの教育において、家庭が役割を果たしていると思う人の割合 <small>県政世論調査において、「最近の家庭は子どもの教育において役割を果たしている」と答える人の割合</small>	10.6% 〔2011〕 〔H23〕	36.1% 〔2016〕 〔H28〕	増加させる	県民の意識に関わる数値のため、具体的な数値目標の設定が困難であることから、「役割を果たしていると思う県民の割合の増加」を目標とする。
家や図書館で1日10分以上読書する児童生徒の割合 <small>普段(月～金曜日)家や図書館で1日当たり10分以上読書する小学校6年生、中学校3年生の調査対象者全体に対する割合</small>	小 68.3% 中 49.9% 〔2012〕 〔H24〕	小 66.6% 中 48.6% 〔2016〕 〔H28〕	増加させる	学校では始業前の朝読書や読書指導を充実させており、家庭等においても自ら読書するようになることを目指す。

子どもの可能性を引き出し、 才能や個性を伸ばす教育の推進

- 確かな学力の育成
- 社会で生きる実践的な力の育成
- グローバル社会で活躍できる人材の育成
- 教員の資質向上

おもな取組み

- とやま型学力向上支援事業等による確かな学力の育成
- 体験的な学習や能動的な学習を重視した授業改善を進め、知識や技能を活用する力や、知的好奇心、探究心を育み、課題解決能力を育成する「主体的・対話的で深い学び」（「アクティブ・ラーニング」）の充実
- 授業実践や研修を通して教員のICT活用指導力を向上させ、児童生徒の主体的で深い学びを促すICTを効果的に活用した授業の推進
- 県が作成した「ふるさととやまの自然・科学ものがたり」などを活用し、富山の自然等を通して科学的な見方や考え方を育む教育の推進
- とやま科学オリンピックの充実や探究科学科における探究的学習、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の成果の普及など、科学に対する関心を高め、科学的才能や論理的思考力、課題解決能力などを伸ばす教育の推進
- 様々な職業に関する知見を高め、望ましい職業観や勤労観等を身につけさせる幼児期から高校教育までの体系的・系統的なキャリア教育を推進し、自らに適した職業を選択する能力や、将来の社会人として夢と志のために挑戦する態度などを育成
- 小・中・高校を通して一貫性のある英語教育の充実
- 「高校生のためのふるさと富山」や富山を英語で表現する英語教材の活用など、世界に向けてふるさと富山を発信する力を育成する教育の充実
- 富山県総合教育センターを中心とした、教職員のキャリアステージと研究ニーズに対応した教職員研修の充実
- 「とやま学校多忙化解消の推進方針」に基づく、教員が児童生徒と向き合いやすい環境整備の推進



とやま型学力向上総合支援事業
（グループの話し合い活動）



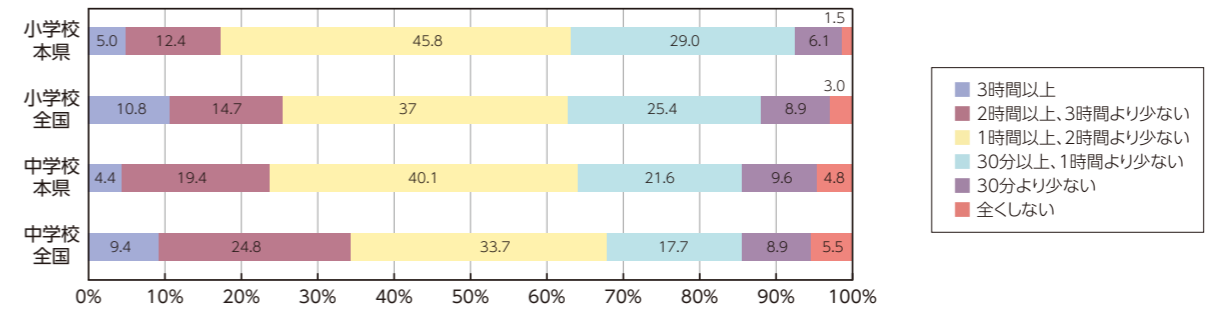
タブレットを用いた授業



「ふるさととやまの自然・科学ものがたり」

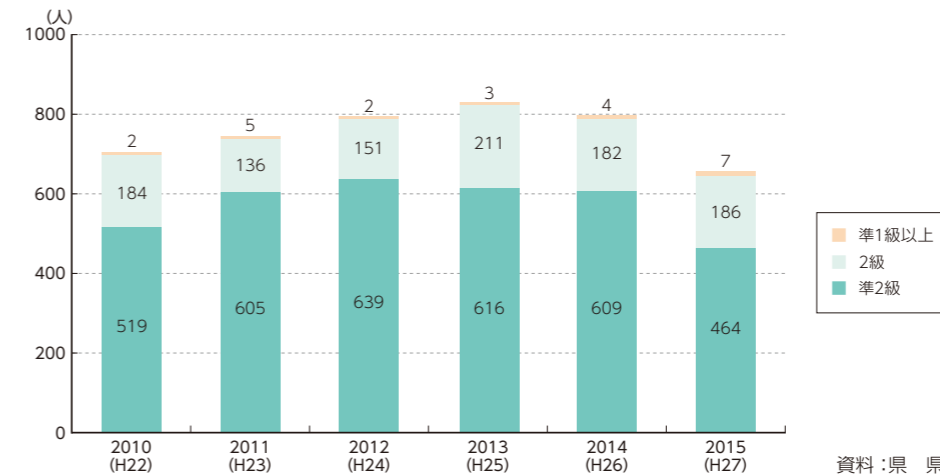
■ 小中学生の学校の授業時間以外の勉強時間 2016（H28）年度

（月～金曜日の1日あたり、学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間を含む）



資料：全国学力・学習状況調査（文部科学省）

■ 実用英語検定準2級以上の有資格者数（県立高校3年生）の推移



資料：県 県立学校課調べ

【参考指標（基本施策の目標を具体的にイメージするための参考となる指標）】

指標名及び指標の説明	概ね5年前	現況	2021（H33）年度の姿	
			2021年度（H33年度）	（目標設定の考え方）
授業が分かると答える生徒の割合 ほとんどの教科がわかる、またはわかる教科が多いと答える県立高校2年生の調査対象校全体に対する割合	64.5% 〔2011〕 〔H23〕	65.4% 〔2016〕 〔H28〕	増加させる	生徒の意識に関わる数値のため、具体的な数値目標の設定が困難であることから、生徒の学習習慣の定着や教科に対する興味・関心の喚起、教員の授業改善などにより、「分かると答える生徒の割合の増加」を目標とする。
インターンシップ等体験率 全日制県立高校3年生のうち、3年間で就業体験または保育・介護体験をした生徒の割合	66.6% 〔2010〕 〔H22〕	73.9% 〔2015〕 〔H27〕	75%	職業系専門学科は体験率100%近くに達しており、これを維持するとともに、総合学科は100%、普通科等は60%を目標とし、全体では75%を目指す。
求められる英語力を有する生徒の割合 中学3年生で実用英語技能検定3級程度以上、高校3年生で準2級程度以上の英語力を有する生徒の割合	—	中 38.4% 〔2015〕 〔H27〕 高 39.1% 〔2015〕 〔H27〕	中 50%以上 高 50%以上	富山県英語教育改善プランにおいて、平成29年度の目標値を50%としていることからそれ以上を目指す。

基本施策3 子どもの健やかな成長を支え 元気を創造する教育の推進

- 豊かな心と健やかな体の育成
- 少人数教育と校種間連携の推進
- 特別支援教育の充実
- 人権や思いやりの心を大切にする教育の推進

おもな取組み

- 思春期における心身の変化についての学びや特別活動における結婚などについての話し合い、乳幼児とのふれあい体験や産婦人科医等による特別授業など、発達段階に応じたライフプラン教育の推進
- 道徳教育推進講演会の開催や「考え、議論する道徳」の実践による道徳教育の一層の充実
- スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の活用による、いじめ・不登校等の未然防止、早期発見・対応のため、小・中学校間の連携を含む相談体制の充実
- 学校における栄養教諭を中核とした食に関する指導など、子どもたちの望ましい食習慣の定着と健康教育の推進
- 小学校3年生の35人学級選択制を4年生に拡充するなど、少人数指導と少人数学級のそれぞれの良さを活かした効果的な少人数教育の推進
- 幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園、小学校の各指導者が、5歳児修了時を目標とした「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有化すること等による、幼児教育と小学校教育の接続の強化
- 大学教員による専門性の高い授業や大学院生による学習支援の実施など、高大連携の推進
- 特別支援教育に関する校内委員会の充実や専門家の指導助言による「個別の教育支援計画」の作成など、発達障害を含む障害のある子ども一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育の推進
- 特別支援学校就労コーディネーターや障害者就労サポーターの配置など、高等特別支援学校等での障害の状態に応じた就労支援の充実
- 「いのちの教育講演会」や人権に関する研修会等による教職員をはじめ、学校や家庭、地域が連携した人権意識の向上



「いのちの教育講演会」



教員研修（読み書き支援の教材づくり）

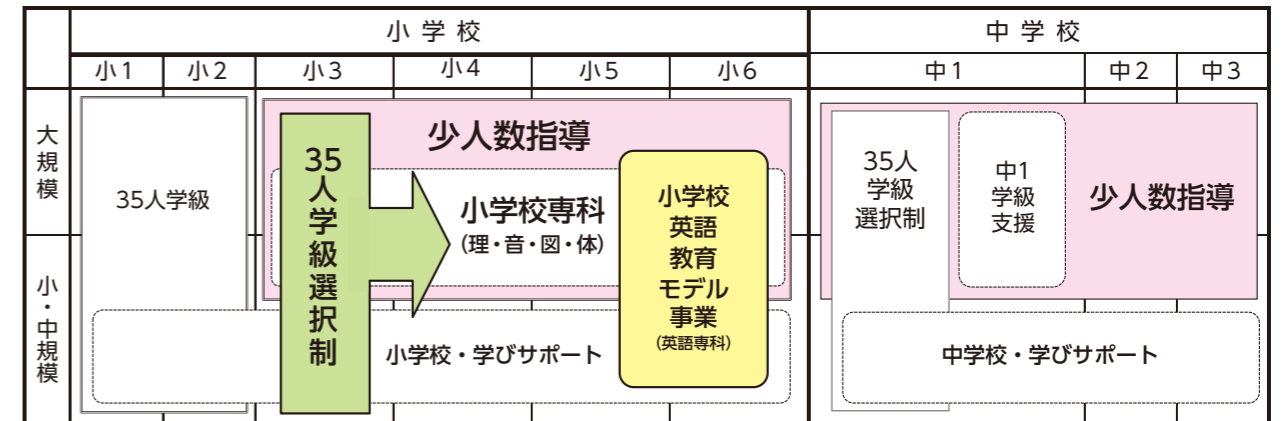
いじめの年度内解消率（公立学校）

年度	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)
県小学校	83.8	81.3	87.1	84.2	79.7	81.9
国小学校	81.6	82.9	90.9	90.2	89.9	90.4
県中学校	88.2	82.7	87.9	88.8	81.6	84.3
国中学校	76.8	79.1	86.7	84.5	86.4	85.9
県高校	88.1	58.3	81.6	83.3	71.9	87.9
国高校	78.6	80.4	90.5	87.4	88.3	84.1
県合計	86.0	80.7	87.1	86.2	80.2	83.2
国合計	79.3	81.0	89.5	88.3	88.8	88.8

資料：問題行動等調査（文部科学省）

少人数教育の実施状況

※H29.4.1 現在



【参考指標（基本施策の目標を具体的にイメージするための参考となる指標）】

指標名及び指標の説明	概ね5年前	現況	2021 (H33) 年度の姿	
			2021年度 (H33年度)	(目標設定の考え方)
【当面の目標】 いじめの年度内解消率 3月31日現在、いじめの認知件数に対して「解消しているもの」の割合	公立学校 小 83.8% 中 88.2% 〔2010 (H22)〕	公立学校 小 81.9% 中 84.3% 〔2015 (H27)〕	限りなく100%に近づける	アンケート調査など、いじめの把握に努めるとともに、早期発見、早期対応に組織的に努めることにより、いじめの解消を目指す。
特別な支援が必要な幼児児童生徒について、指導目標や指導内容を盛り込んだ「個別の指導計画」を作成していない学（園）の割合	幼 12.1% 小 0.5% 中 4.9% 高 15.7% 〔2010 (H22)〕	幼 3.4% 小 0.5% 中 0.0% 高 11.6% 〔2015 (H27)〕	限りなくゼロに近づける	研修会や学校訪問等を通じて作成の必要性の理解を図り、作成をしていない学校（園）の割合をゼロの近づけることを目指す。

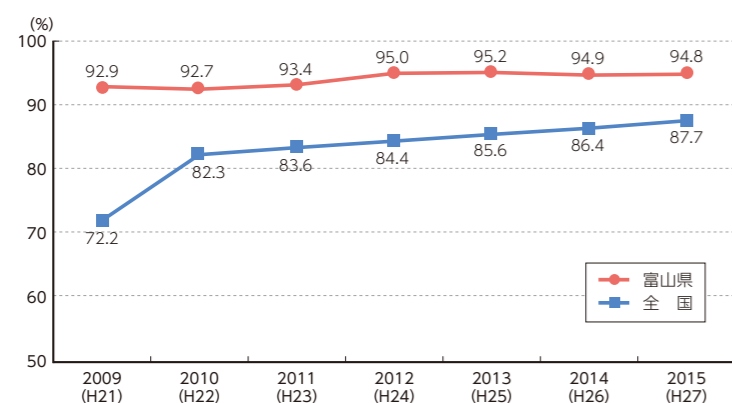
基本施策4 社会の変化と多様なニーズに対応した 高校や大学等の教育環境の充実

- 県立学校の教育環境の整備・充実
- 私立学校教育の振興
- 大学教育・学術研究の振興

おもな取組み

- 各県立学校が生徒や学校の実態等に応じて策定した中長期ビジョン実現のための実効性のある取組みの推進
- 魅力と活力のある県立学校についての検討
- 全ての県立学校において、情報セキュリティ対策の強化や無線LAN、タブレット端末など、順次整備を進め、一層のICT環境の整備を推進
- 私立学校における教育課程の充実、少人数教育の推進、部活動等スポーツ文化活動の振興など、創意と工夫を凝らした特色ある教育に対する支援
- 教育水準の向上や学術研究機能の強化など、高等教育機関の魅力向上への支援
- 単位互換授業、高大連携セミナー、合同企業訪問など、県内高等教育機関が相互に連携して実施する大学コンソーシアム富山の取組みを支援
- 医薬品工学科の新設等学科の拡充・新設及び看護学部の開設など、大学の魅力向上、教育研究機能の充実の取組みへの支援並びに施設・設備の整備

■ 校内LAN整備率（公立学校）



資料：学校における教育の情報化の実態等に関する調査（文部科学省）



2020年4月供用開始予定の県立大学新棟イメージ案

基本施策5 生涯を通じた学びの推進

- 多様な学習活動の支援
- 県民の学習を支える基盤整備
- キャリアを磨く実践的な学びの推進

おもな取組み

- 富山県生涯学習カレッジのふるさと学習講座の開催など、学習機会の提供
- 県立図書館や埋蔵文化財センター、公文書館等での企画展示や講演会等による学習機会の充実
- 県生涯学習カレッジ本部及び各地区センター（県内4地区に配置）などの学びの拠点の整備
- 県生涯学習カレッジのふるさと学習の指導者の養成講座や「自遊塾」など、学びのリーダーやボランティアの育成
- 地域のコーディネーター機能を担う公民館の館長などと連携した学習成果の還元・活用等による地域コミュニティ活性化の推進
- 専修学校等が行う社会人のキャリアアップのニーズに対応した実践的な職業教育や専門的な技術教育への支援



県民カレッジ（とやまの名水探訪の講座）



埋文センター「出前講座」

【参考指標（基本施策の目標を具体的にイメージするための参考となる指標）】

【参考指標（基本施策の目標を具体的にイメージするための参考となる指標）】

指標名及び指標の説明	概ね5年前	現況	2021（H33）年度の姿	
			2021年度（H33年度）	（目標設定の考え方）
県内高等教育機関における県内企業との共同研究件数	100件 〔2010〕 〔H22〕	119件 〔2015〕 〔H27〕	120件以上	過去3年間の平均件数は、新・元気とやま創造計画（以下「総合計画」という）における目標値（110件）を超えて、堅調に推移しており、産学官連携の一層の推進により、現況を超える件数を目指す。

指標名及び指標の説明	概ね5年前	現況	2021（H33）年度の姿	
			2021年度（H33年度）	（目標設定の考え方）
1年間に生涯学習を行ったことがある人の割合 県政世論調査において「過去1年間に文化・スポーツや趣味・教養などの学習活動を行ったことがある」と答える人の割合	32.2% 〔2011〕 〔H23〕	30.3% 〔2016〕 〔H28〕	39%	団塊の世代の地域活動への参加、民間事業者等の開設講座数の増加、インターネット等による在宅講座の普及により、生涯学習に取り組む県民の増加を見込み、概ね4割を目指す。
県内高等教育機関の大学院における社会人の数 大学院在学者のうちの社会人の数	166人 〔2011〕 〔H23〕	225人 〔2016〕 〔H28〕	250人	近年は年度による増減があるものの、概ね横ばい傾向にあり、各大学の社会人受入れに対する積極的な姿勢による増加を見込み、現況から1割程度の増を目指す。

基本施策 6 ふるさとを学び楽しむ環境づくり

- 学校におけるふるさと学習の推進
- 家庭、地域、企業等におけるふるさと学習の振興
- 高志の国文学館を拠点とするふるさとと文学の振興
- 伝統文化の保存・継承

おもな取組み

- 小中学校における、県が作成した「ふるさととやまの人物ものがたり」や市町村が作成した郷土学習教材を活用した、先人の遺業や夢、志などを学ぶ教育の推進
- すべての県立学校における、県が作成した補助教材「高校生のためのふるさと富山」を用いた郷土史・日本史学習の実施
- 農業体験や学校給食での地場産食材の活用等の取組みを通じた、地場産品や郷土の食文化等への理解の促進
- 公民館等を拠点として、子どもたちが親や家族と一緒に地域の人々と交流しながら参加するふるさとの学びや身近な自然体験活動の推進
- 大伴家持生誕1,300年記念事業の推進による「家持」の普及啓発と顕彰
- 高志の国文学館における富山ゆかりの作品を小説等の純文学のみならず、映画や漫画、アニメなどで紹介する多彩な企画展の開催
- ふるさとの文化資産を次世代につなぐ、国・県指定文化財の保存等の推進
- ユネスコ無形文化遺産「高岡御車山祭」・「魚津のタテモン行事」・「城端神明宮祭の曳山行事」をはじめとした富山の曳山行事の魅力発信



「高岡御車山祭」

「魚津のタテモン行事」

「城端神明宮祭の曳山行事」

【参考指標（基本施策の目標を具体的にイメージするための参考となる指標）】

指標名及び指標の説明	概ね5年前	現況	2021 (H33) 年度の姿	
			2021年度 (H33年度)	(目標設定の考え方)
地域文化に関するボランティア活動者数 指定文化財など地域の文化資源を対象として保存伝承、解説案内等の活動を継続的に実施している団体の活動者数	13,430人 〔2010 (H22)〕	13,620人 〔2015 (H27)〕	14,000人	地域文化に関するボランティアグループ等への県民参加の拡大傾向を踏まえ、年平均50人程度の増加を目指す。

基本施策 7 次世代を担う子どもの文化活動の推進

- 子どもの様々な文化活動の充実と文化交流の推進
- 学校における文化活動の充実
- 富山県美術館をはじめとする文化施設を活用した若い世代の芸術文化活動の振興

おもな取組み

- 一流音楽家による小学校での出前コンサートの開催支援や、県内芸術家による親しみやすい公演の開催など、子どもを対象とした質の高い芸術鑑賞の機会の拡充
- とやま世界こども舞台芸術祭の開催や、リンゲン世界こども演劇祭（とやま世界こども舞台芸術祭と友好提携）、ベーラ・バルトーク国際合唱コンクールなどの海外の国際大会への定期的な参加の促進、海外研修派遣への支援など、子どもたちの文化交流、国際交流の機会の拡充と異文化・多文化理解の促進
- 美術館等との連携による児童生徒が質の高い芸術に触れ、親しむ機会や創作活動の充実
- 中学校文化祭や高等学校文化祭、平成31年に本県で開催される全国中学校総合文化祭など、生徒が行う発表や交流の機会の充実による文化活動の参加意欲の向上と裾野の拡大
- 教育学習・活動の拠点として地域に開かれた美術館を目指す富山県美術館の活動の充実

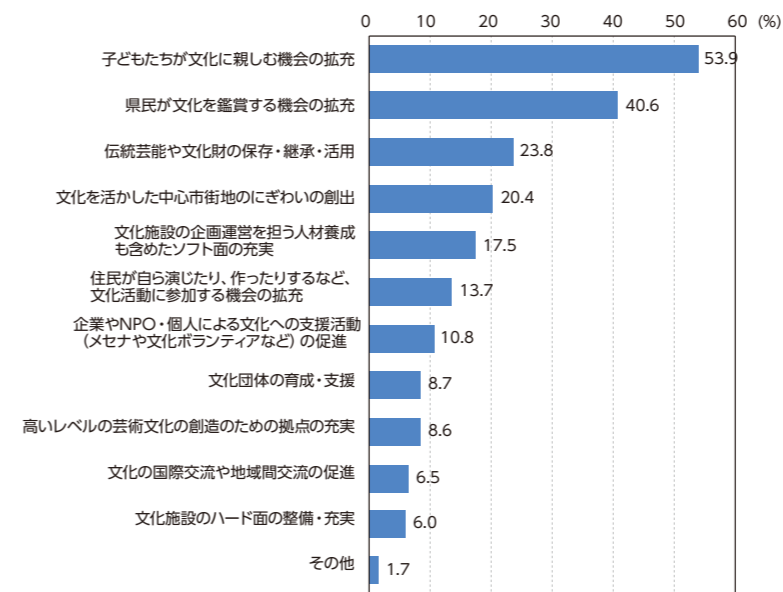


とやま世界こども舞台芸術祭2016



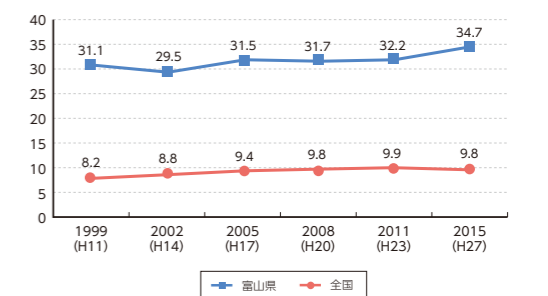
富山県美術館

■ 文化振興を通じて「元気とやま」を創造するために重点を置くべき施策



資料：文化に関する県民アンケート調査（平成28年度）

■ 人口100万人あたりの登録美術館・博物館数



資料：社会教育調査（文部科学省）

基本施策 8 元気を創造するスポーツの振興

- 県民がスポーツに親しむ環境づくり
- 学校等における体育・スポーツの充実
- 全国や世界の檜舞台で活躍できる選手の育成
- スポーツを支える人材の養成と活用

おもな取組み

- 幅広い年齢や競技レベルなどに対応した総合的なスポーツ大会の開催や、運動習慣の定着を目的としたイベントや運動教室の実施など、気軽にスポーツに参加できる機会づくりの推進
- 「富山マラソン」の開催を契機とした県民総参加によるスポーツの振興と新たな富山県の魅力の創造、交流人口の拡大
- 幼稚園・学校が家庭や地域と連携して取り組む「元気っ子育成計画」の実施や、「きときと夢体操」の普及など、子どもたちの望ましい生活・運動習慣の定着と体力向上の推進
- 障害者が身近な地域でスポーツに親しめるようにするための、障害者スポーツ指導員の養成等の環境整備の推進
- 未来のアスリート発掘事業等により優れた運動能力を秘めた児童を発掘し育成するなど、ジュニア期から個人の特性や発育発達段階に応じて強化に取り組む一貫指導体制の推進
- 元気とやまスポーツ道場開催事業、スーパーコーチ派遣事業等による中・高校生のさらなる競技力の向上と運動部活動の一層の充実
- オリンピックでの本県選手の活躍を目指した取組みの推進
- 運動部活動を指導するスポーツエキスパートなど、地域のスポーツ指導者の活用



富山マラソン 2016



全国中学校体育大会
ハンドボール優勝
(平成28年度)

基本施策 9 教育を通じた「ふるさと富山」の創生

- 地域を支える人材の育成
- 若者の県内定着の促進

おもな取組み

- ふるさとの歴史、文化、自然を親子で学ぶ活動や地域ぐるみの活動の拠点である公民館への支援
- とやま科学オリンピックの充実や探究科学科における探究的な学習の実施、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の成果の普及など、科学に対する関心を高め、子どもたちの才能や可能性を見出して伸ばす教育の推進
- 高校におけるインターンシップや企業経営者等による講演など、職業観や勤労観を育む教育の推進
- 県と高等教育機関との連携協力により、地域課題を解決できる人材の育成を推進
- COC+事業を活用した県内高等教育機関や産業界、市町村等との連携協力により、雇用創出や新規学卒者の地元定着を推進
- 県内企業と県の出捐による基金を創設し、県内企業にUIターン就職する大学院生等の奨学金返還に対して支援し、若者の県内定着を促進



公民館親子で高志の国探検事業

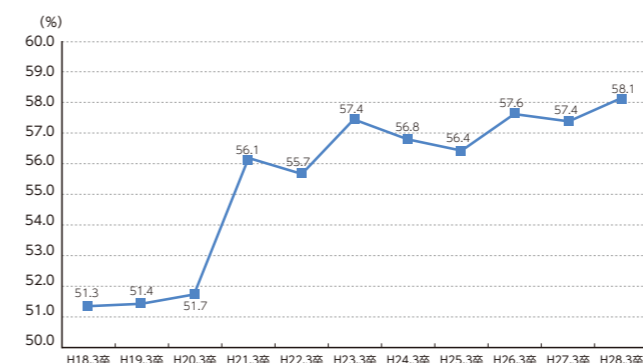


とやま科学オリンピック2016

【参考指標（基本施策の目標を具体的にイメージするための参考となる指標）】

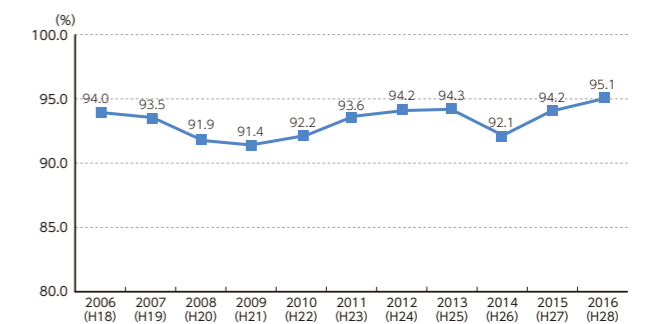
指標名及び指標の説明	概ね5年前	現況	2021（H33）年度の姿	
			2021年度（H33年度）	（目標設定の考え方）
児童の体力・運動能力の平均値 小学校6年生50m走の平均値	男 8.98秒 女 9.28秒 〔2011（H23）〕	男 9.03秒 女 9.20秒 〔2016（H28）〕	男 8.80秒以内 女 9.10秒以内	低学年から体力向上の意識を高め、各学校における特色ある体力づくり運動を推進することにより、過去20年間の最高値（男8.80秒（1997（H9）年度）、女9.10秒（1998（H10）年度））を目指す。
国民体育大会、全国高等学校総合体育大会及び全国中学校体育大会における上位入賞数 3位以内の入賞数	37 〔2011（H23）〕	43 〔2016（H28）〕	47以上	県体育協会や競技団体、関係機関等の連携による一貫指導体制等を推進することにより、2000年国体後概ね5年間の成績水準の復活・維持を目指す。

■ 大学卒業生のUターン率調査



資料：県 労働雇用課調べ

■ 高等学校卒業生の県内就職率（公立私立高等学校の合計）



※各年3月卒業生

資料：県 県立学校課調べ

編集 | 富山県教育委員会教育企画課
〒930-8501 富山県富山市新総曲輪1番7号
TEL 076-444-4583
FAX 076-444-4433
URL http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/3000/index.html